

## 埼玉大学 教養学部

埼玉大学の教養学部で学ぶ「教養」とは、人文学と社会科学を含む広い学問領域を指します。幅広い知識を習得しつつ、専門的な学問分野を深めることで、卒業後のキャリアに資する確かな知的基盤を形成することを目指します。



■大学生  
左京周 さん



■先生  
平林紀子 先生



■卒業生  
大澤美帆 さん

### CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

#### ●プロフィール

埼玉大学教養学部の特徴について教えてください。

■先生

埼玉大学教養学部では、人文学と社会科学の中から広い分野をそろえ、5つの専修課程と11の専攻を設けています。それぞれの専修課程に専攻があり、幅広い知識を学びながら、自分が究めたいテーマを見つけていけるようにカリキュラムが組まれています。

国際関係論専攻・国際開発論専攻は「グローバル・ガバナンス専修課程」。社会コミュニケーション専攻・地理学文化人類学専攻は私の属する「現代社会専修課程」。哲学専攻・芸術論専攻・歴史学専攻は「哲学歴史専修課程」。ヨーロッパ文化専攻・アメリカ研究専攻は「ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程」。日本文化専攻・東アジア文化専攻は「日本・亜細亜文化専修課程」。このようにそれぞれが分かれています。卒業論文は、専修課程の中のどの教授に提出しても構いません。講義は専修課程・専攻に関わらず受講することができます。教養学部ですから広くさまざまな見識を身につけ、単位を積み上げていけるようになっているのです。



## 先生の研究について教えてください。

### ■先生

『政治コミュニケーション研究』という分野になります。なかでもアメリカの政治を扱っており、特に選挙を中心としたマス・コミュニケーションやマーケティング戦略について研究しています。直近では米大統領選挙が、世界的にも大きな注目を集めていました。あの選挙キャンペーンではどのようなマーケティング戦略が練られ、それが実際にどのような形でメディアを通して実行されているのかを分析しています。

今回の大統領選挙では、二大有力候補だったヒラリー氏とトランプ氏の対決が様々な話題となりました。そこで発せられるメッセージは、ターゲット層、タイミング、場所、トーンや表情、そして使われる言葉といった全ての要素にマーケティング戦略が練られているわけです。利用するメディアも同様です。現在ではインターネットを介したツイッター、フェイスブック、インスタグラムといったSNSを多くの有権者が使っています。一方で、新聞やテレビといった従来からのマスメディアの力もまだまだ衰えてはいません。またSNSは比較的若い層、従来のメディアは中高年の層とそれぞれに訴求できる層が違います。マーケティングでは、その層に合わせてどのようにメッセージを変えることが有効的かと考えるのです。普段の政治、選挙もそうですが、大統領選挙はその総決算とも言えます。非常に興味深く、観察・分析をすることができました。

## 広告などの商品を販売するためのマーケティング戦略にはなじみがありますが、政治の世界でもマーケティングは有効なのですね。

### ■先生

もちろん。広告や販売のマーケティングは、いかに消費者に魅力を訴えかけて購買意識を芽生えさせるかということを考え、戦略を練って実行します。それはつまり、商品を支持してもらう、ファンになってもらうことが目的です。

政治家は各人が、自分が実現したい様々な政策を持っています。それを独りよがり発信するだけでは、だれも賛同してくれませんし、実現できません。そこで大切なのが、国民の支持です。自分と自分の打ち出す政策のファンになってもらわなければならないのです。それを得るために、マーケティングを使うわけです。政治家が実現したい政策と、国民の支持の架け橋となるのが、マーケティング戦略と言うことができます。

## アメリカ政治を中心に研究が行われているのはどうしてですか？

### ■先生

マーケティング自体がアメリカで生まれた学問であるという理由がひとつあります。アメリカで新しい試みや戦略が生まれ、その効果が検証され、世界に広がっていくという流れがあります。先ほどもお話ししましたが、大統領選挙はその最先端であり最前線です。アメリカ政治のマーケティング、メディア・コミュニケーションを研究することで、日本はもちろん、世界の動きもわかってくるのです。

## 世界の動きも予測することができるのですか？

### ■先生

SNSが盛んに使われているとお話ししましたが、その状況を見てもわかるように、現在では情報に国境はありません。それどころか、時差もありません。アメリカで発信されたことは、即座に世界各国に伝わり、カタチを変えてその国の政治経済、社会文化のあり方に影響を与えます。

政治とマーケティングという意味では、1990年代にイギリスの政治にアメリカのコンサルタントが進出しました。その後、自国の政治に特化したマーケティングが形成されていきました。現在で

は EU のどの国でも政治にマーケティングの手法を活かしています。南米の政治にもすでにアメリカのマーケティングのコンサルタントが入っています。日本も徐々にそうなりつつあります。国によって政治の制度や風土は違えど、民主政治ならば「国民の支持を得る」という目的は同じです。ですからマーケティングは有効ですし、それがどのように使われているかで、その国の政治家がどう考え、どう思われたいかが見えてきます。つまり、その国の動きがわかるのです。

### 先生がこの研究を始められたきっかけについて教えてください。

#### ■先生

アメリカ政治を中心に研究を行っているもう一つの理由もそこにあります。私は昔から、アメリカが好きでした。学生時代には政治学を専攻していたので、マーケティングとは無縁。マーケティングを学んだのは、大学卒業後に就職した百貨店でした。商品買い付けの部署に配属になり、そこでゼロから商品のマーケティングを学んだのです。その後、やはり政治を学びたいと大学院に戻り、修了後に埼玉大学の教養学部助教授になりました。その時に「アメリカが好きだ」という気持ちもあり、ハーバード大学・ジョージワシントン大学の客員研究員として留学をしたのです。接戦のあまり票の数え直しをしたほど混乱した 2000 年大統領選挙の時です。昨年の大統領選挙でもそうでしたが、アメリカの支持者たちは非常に熱狂的ですし参加的です。その熱狂と参加を、選挙で勝つための力に変えるのはマーケティング戦略です。私はそこに魅せられたのです。それから研究をスタートし、今まで 4 人の大統領の選挙を経験しました。オバマ大統領までの戦略については、研究をまとめ『マーケティング・デモクラシー — 現代米国政治の戦略技術』という本を執筆しています。

### 日本の政治についても分析されているのですか？

#### ■先生

軸足はアメリカ政治に置いていますが、もちろん日本の政治も研究対象としています。アメリカで行われたマーケティング戦略が、どのように日本なりに適用されているかを分析するのも興味深いですね。

例えば、日本ではまだまだインターネットは若年層、新聞・テレビはそれ以上の年齢層のメディアという実状があります。そして、有権者の平均年齢は 55 歳と高いのです。SNS では関心の低い若者層に「投票に行こう」と訴えかけることが大切です。一方で新聞・テレビでは手を変え品を変えたメッセージを何度も何度も訴えかけることで浸透させ、投票に行くだけでなくどこに投票するかをはっきり決めてもらうことが大切になってきます。そのために各候補者がどんなマーケティング戦略を練っているのか、そこにアメリカの手法がどんな風に影響を与えているのかということを見るのは面白いですね。

選挙に関わらず、政治というのは国民の支持や理解を得なければ、次のステップに進んではいけない、つまり政策を実現できないです。私のゼミでは、「日本国憲法第 9 条の改正」をテーマに、これからの日本をどのようにするべきかというビジョンを実現するためのマーケティング戦略を話し合ったこともあります。

選挙に関わらず、政治というのは国民の支持や理解を得なければ、次のステップに進んではいけない、つまり政策を実現できないです。私のゼミでは、「日本国憲法第 9 条の改正」をテーマに、これからの日本をどのようにするべきかというビジョンを実現するためのマーケティング戦略を話し合ったこともあります。

#### ■大学生

昨年はちょうど大統領選挙ということもあり、ゼミでは様々に繰り広げられるキャンペーンについて分析しました。前回の大統領選挙の際は高校生でしたから、制度はもちろん、選挙にマーケティングの手法が取り入れられているなど考えることもなく結果を受け入れるだけでした。しかし、ゼミで政治のマーケティングを学び、一つひとつのメッセージの裏にどんな思惑があるのか、それが



人の心を動かし、社会に影響を与えるのかということを考え、実際にどんな効果が出ているかを目の当たりにするのはとても刺激的でした。

### そんな左京さんがこれから卒論として取り上げようとしているテーマはどんなことですか？

#### ■大学生

私は将来、地元に戻って公務員になろうと思っています。プロモーションを行い、たくさんの人を呼び、地元を活気づけたいと考えています。そこで、卒論では様々な自治体が行っている町おこしや村おこしの取り組みについて調べ、それがどのような成果を上げているか、どんなプロモーションが有効だったかを研究したいと思っています。こういった公共事業にも先生のゼミで学んだ政治のマーケティングを読み解く力を活かすことができます。

### 大澤さんはどのようなことをテーマに研究をしたのですか？

#### ■卒業生

学生時代に結婚式場でアルバイトをしていたこともあり、「結婚観の移り変わり」をテーマに取り上げました。過去10年分くらいの女性誌を全て読み、どのように女性の結婚観が変わったかを読み解いていきました。少し政治とはジャンルが違います。

しかし、雑誌で取り上げていることは、世の中の女性が考えていることや欲していることを代弁しています。また、企業や社会が「こういう方向に持って行こう」という考えなどもその根底には流れています。そういったことを、多くの資料を読む中でつかんでいきました。

それは先生の政治のマーケティングにも似た要素があります。

### お二人とも独自の目線で卒論を書かれているようですが、先生のゼミではかなり自由度の高いテーマの設定ができるのですか？

#### ■先生

私のゼミに限ってはいません。冒頭でもお話したように、埼玉大学教養学部では、卒業論文を必須にしていますが、ゼミのテーマと教員の専門分野は必ずしも一致する必要がないのです。自分が評価してもらいたい教授に提出していいことになっています。ただし、当然ながら出席したことの無いゼミの教授に提出するのはNGです。毎年、



多様なジャンルの卒論が提出されてくるので、私も同時に勉強しながらアドバイスします。お互いに見識を掘り下げ、広げるいい機会になっていると感じています。

### ●大学生活について

#### 卒業生の進路にはどのようなものがありますか？

#### ■先生

公務員になる卒業生が多いですね。地方出身で、地元に戻る学生も多いです。民間では金融業界などが多い印象です。その他の業界では、メディア関係が多いですね。広告制作会社やイベントプロモーションなどで、学んだ知識を活かしている卒業生もたくさんいます。

## お二人が埼玉大学教養学部に入学をしようと思った理由について教えてください。

### ■卒業生

私は福島県の出身です。高校生の時、どの大学に行けばどんな業界の仕事に繋がるのかといった情報が周りにあまりありませんでした。それもあり、自分がどんな仕事に就きたいかという具体的なイメージがなく、それを見つけるためにも大学で広い視野を学びたいと考えました。

教養学部であれば、まずは専門に特化することなく広く様々なことを学べるだろう。その中で、興味関心を持ったことを、卒業までにあらためて追究していけばいいと考えました。先ほどの先生のお話にもありましたが、埼玉大学の教養学部は、ゼミの内容に依らず卒論のテーマを決めて取り組むことができます。自分の興味に従って広く学び、それを総動員して卒論という形にできるので、入学して良かったとつくづく思います。



### ■大学生

私も、地元を離れたいという気持ちがありました。新潟県の佐渡が地元です。高校時代から「将来は地元に貢献できる仕事に就きたい」と思っていたので、まずは離れたところから地元を見つめ、広い視野を学びたいと思ったのです。それを高校時代の担任に相談したところ、進められたのが教養学部でした。そこから埼玉大学について調べるようになりました。講義内容を見ると、各期に興味深い講義が複数あり「ここなら自分が知りたいことや身につけたいことをじっくり学べそうだ」と実感しました。

### ■先生

埼玉大学教養学部は、少人数制の講義が多く、講座数も豊富であることが特長です。講義を通して新たな興味や関心が生まれれば、それに関連する別の講義を受講し、また新たな視点で学ぶことができます。

もちろん、勉強したいテーマが明確な人なら、最初からそれを突き詰めていくこともできます。メインとしたいことが見つからなくても、教授たちとの距離が近いので相談しやすく、私たちも普段から学生たちをケアするように努めています。

それもあり4年の間に誰もが何かしらのテーマを見つけることができます。

## 先生のゼミについて教えてください。

### ■卒業生

私が3年生になる直前に東日本大震災がありました。福島県出身ということもあり、これからの進路と将来の就職とでとても悩んでいました。そんなとき、ゼミの説明会で平林先生が「私の今年のゼミでは震災後の日本のビジョンを創ります。これからの日本を考えていくのは、あなたたちなのですから」とおっしゃった言葉にとっても感銘を受け、先生のゼミに決めました。

ゼミでは、3年生で衆議院議員総選挙を、4年生では大統領選挙の中間選挙をテーマとしました。3年生では、憲法改正に合わせた政策も考えました。知的なハードワークでしたね。グループに分かれてディベートなども行いました。4年生ではその経験を踏まえて、3年生が考え、発表するアドバイザーを担当。多岐にわたる立場の人のこと、影響力や出されるであろう反論などについて考える必要があるので、ゼミを2年間経験すると、就職活動で面接官にどんなことを聞かれても怖くなくなっていました。

## ●就職活動、仕事について

### いまのお仕事についてお話しください。

#### ■卒業生

結婚式場でウェディングプランナーとして仕事をしています。大学時代にも結婚式場でアルバイトをしていましたが、当時は公務員試験の講座にも通っていて、将来は公務員になろうと考えていました。しかし「大学時代に真剣に打ち込めたことって何だろう」と振り返ったときに、ゼミとアルバイトだったのです。それで「卒論でも取り上げたし、もう少しのめり込んでみたい」と思い、方向転換することにしました。

「女性としての幸せってなんだろう？」というのが、大学選びでもゼミの選択でも、卒論でも私のテーマでした。それをこの仕事を通して見つけることができたらいいなと思っています。

### 大学で学んだことが役に立っていると感じるのはどんなときですか？

#### ■卒業生

ウェディングプランナーは、結婚式を挙げる予定のお客様と話し合い、どのような挙式にするかをご提案してそれをカタチにしていく仕事です。

大切なのは信頼関係を築きながらお客様に心を開いていただくことです。お客様のご希望や挙式のイメージを、お話を伺う中からくみ取りご提案することでお客様に喜んでいただくと、それが信頼に繋がります。

この「お客様の想いをくみ取り、カタチにして提案する」というところに、ゼミで学んだマーケティングの手法が役に立ちます。先生もお話ししていらっしゃいましたが、政治家は自分の政策を実現するために、国民の支持を取り付けようとマーケティング戦略を駆使します。お客様のご要望をくみ取って提案し信頼を得るというのは、エッセンスとしては同じです。

挙式当日を迎え、お二人だけでなく、共に祝福される皆さまにとってかけがえのない思い出の日にすることができれば、本当に嬉しいです。



### 左京さんが将来目指している仕事について教えてください。

#### ■大学生

私は地元である新潟県佐渡に貢献したいと思っています。そのために、公務員になろうといま準備しているところです。

佐渡は全人口に占める高齢者率が高く、空き家も増えているのが問題となっています。過疎化も深刻です。しかし、豊かな自然や「佐渡薪能」という能文化など、誇るべきものがたくさんあります。これらを魅力的にアピールすることができれば、若い世代が佐渡に戻ってきてくれるのではと考えています。

そのための知識や技術を学ぶというのが、大学に進学する目的でもありましたし、広く人の心に訴えかけ、支持を得るための戦略を学べる平林先生のゼミを選んで正解だったと思います。

## ● 5年後に向けて

### 5年後に皆さんは何をしているでしょうか？

#### ■大学生

私は公務員として地元に戻る予定です。まだ社会人になってそれほど時間は経ってない時期ですが、大学で学んだことを活かして、これまで佐渡にはなかったような効果的な町おこしのプロモーションなどができているといいですね。それで地元の人々や佐渡の出身者はもちろん、日本の多くの人に佐渡の魅力を伝え「行ってみたい」と思ってもらえればとても嬉しいです。



#### ■卒業生

昨年、結婚したのですが、ブライダル業界では結婚や出産を機に仕事を辞める方が多いと感じています。しかし私は結婚したからこそ、自分の体験を活かした結婚観でお客様により喜ばれるご提案ができるようになったと思います。仕事にひとつ厚みが増したという感覚ですね。

また昨年の8月にはチーフになったのですが、お客様に直面する仕事だけでなく、全体の統括や各プランナーのスキルアップ、会社の運営についても考えるようになりました。それにより、俯瞰的にブライダルの仕事を見つめることができ、大学時代から考えてきた「結婚観」や「女性の幸せ」ということに、ひとつ答が出るのではないかと思うのです。ですから、この仕事はまだまだ続けたいです。

そして5年後にはお母さんになり、ママプランナーとしてよりお客様の人生に寄り添った提案ができていくといいですね。

#### ■先生

昨年の大統領選挙で、トランプ大統領が誕生したのを見て、私の研究はひとつの区切りを迎えたのではないかと思います。これまで4人の大統領の誕生を通して、そのマーケティングを研究してきました。中でも昨年の大統領選挙は、かなり特異なものだったと感じています。それを元に、執筆した本に加筆をしようかと考えているところです。

5年後だと、もう一度、大統領選挙を経験していることになります。これまでの研究を振り返り、思想的に研究を深掘りしたいという思いもあります。

一方で、私は常に「人の役に立つ仕事に就きたい」と考えています。学生時代は医者を目指したこともあります。しかし、今からではちょっと難しいですね。これまでのキャリアと研究を活かし、法律家を目指すのもひとつの途ではないか、と思います。日米の政治を知り、法律を知ることで、世の中の課題を解決できる。そんな人材になりたいとも思います。昨年の大統領選挙を見て、そんな気持ちも芽生えています。5年後に自分がどうなっているか。私自身もワクワクしています。

## ● 高校生へのアドバイス

### 最後に高校生へのメッセージをお願いします。

#### ■大学生

高校時代を振り返ると、もっとたくさんの人と話をしておけばよかったなと思います。高校時代から公務員になって地元で貢献したいという気持ちはありましたが、やはり勉強に一生懸命になって、それがメインの生活になっていました。地元のことを考えよう、広い視野を身につけようと地元を離れて大学に進学するのであれば、なによりもまず地元のことをよく知っておかねばならなかったと思うのです。地元を知っているからこそ、そのいいところ、ほかの県にはないところが見えてくる。

そのためにはもっと人と話し、考え方を聞き、情報を吸収しておきたかったですね。ぜひみなさんも時間を見つけて、年代に関わらずいろいろな人と話をしてください。その中から自分の進むべき道ややりたいことなどが見えてくることもあるのではないのでしょうか。

#### ■卒業生

私もちょっと似ているのですが、興味を持ったことにはどんどん挑戦しておけばよかったと思います。苦手や得意という壁もできるだけ作らず、やってみることって大切だと思います。

私は高校が家から遠く、通学するのが大変でした。それもあって部活動をあきらめていたのです。いま思うと、部活動を通していろいろな刺激を受けて、考え方も変わっていたと思います。勉強も苦手分野にチャレンジすることで、開ける道があると思います。興味を感じた自分の気持ちに正直に、そして積極的に行動してください。

#### ■先生

私が研究を始めたきっかけを冒頭に話しましたが、大澤さんが話したように「やりたい」と思った気持ちに正直になることは大切です。人生にとって、無駄な時間はひとつもない。自分のこれまでを振り返るといつもそう思います。一見すると関係のないような寄り道も、ひょんなところでその経験が生きてくること、時には人生を左右することもあります。ぜひどんどん行動してください。

学習面でいうと、英語と世界史はしっかりやっておきましょう。いまや国境は曖昧になっています。世界は同時に情報を受け取り、動きます。その時に、使われるのはやはり英語。情報を受け取るだけでなく、自分が発信するときにも必要になります。そして私たちがいま生きているこの世の中は、先人の歩みの上に成り立っています。その歴史を知らなければ、自分がどこに立っているかわからないのも同然です。世界史年表を、国ごとではなく、ひとつの世界の動きとして捉えると、また面白さや新たな興味が湧いてくると思います。日本史も、ぜひ世界史年表に落とし込んで、ひとつの世界の動きとして理解してみてください。きっといままで気付かなかった世界が見えてくるはずです。そしてそれが、いま私たちが生きている、世界の本当の姿なのです。

## ●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

### 平林紀子先生

埼玉大学人文社会科学部研究科教授

私立成蹊学園高等学校出身。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、民間企業に就職。勤務中に商品買いつけをする部署に配属。ゼロから商品マーケティングを修得。その後、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を修了。埼玉大学教養学部助教授に任命された後、米ハーバード大学・ジョージワシントン大学の客員研究員として米国大統領選挙を研究。埼玉大学教養学部教授を経て、現職は人文社会科学部研究科教授。政治学博士。専門は米国政治、メディア論。主な著書は『マーケティング・デモクラシー—現代米国政治の戦略技術』（春風社）など。

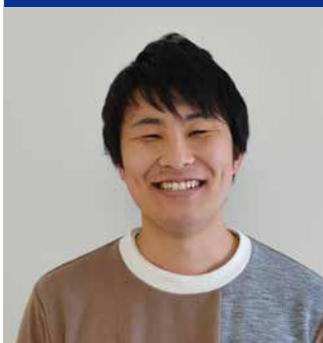


■卒業生

### 大澤美帆さん

グランドオリエンタルみなとみらい勤務

福島県立原町高等学校出身。埼玉大学教養学部現代社会専攻卒業。卒業論文では、過去10年分の女性誌を資料として分析し「結婚論の変遷とそれから読み解く女性の幸福観の変化」についてまとめる。大学時代にアルバイトをしていたウェディングプランナーの仕事に興味を持ち、同業界へ就職を決意。現在の職場ではチーフとして、ウェディングプランナーとして、また職場全体をまとめる立場として活躍中。



■大学生

### 左京周さん

埼玉大学教養学部教養学科／社会学専攻 3年生（2016年度取材当時）

新潟県立佐渡中等教育学校出身。高校時代はソフトテニス部部長を務め、市大会準優勝、地区大会出場など華々しい成績を残す。また生徒会長も経験。故郷である佐渡島では、伝統芸能である「佐渡薪能」の演じ手でもある。大学では2年生の春期休暇時にオーストラリアのモナシュ大学で1ヶ月の語学留学を果たす。卒業後に地元に戻り、公務員となるべく現在はその勉強中。